

令4 高等学校書道 (5枚のうち1)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今から百年ほど前に、(①)の都の跡から亀甲や獣骨に刻まれた文字が発掘された。これが(②)と呼ばれる中国で最も古い文字である。(①)、(②)の周の時代は、祭壇に供える青銅器が盛んに制作された。大孟鼎は西周初期を代表する青銅器で、このような青銅器の銘文を(③)という。初めは一族のシンボルマークのような象が中心だったが、次第に字数も増え、文字の形も整理された。

隷書は、篆書が公用書体であった時代に、日常用いるのに便利なよう簡略に速く書くようになったことから発生した書体である。秦の(④)は、全国を統一(前二二一)すると、それまで自国で用いていた文字を元にして、文字の統一を図ったが、日常の筆写に便利な簡略体の使用も認めていた。I雲夢睡虎地秦簡はその例で、点画は篆書に比べ直線的で、隷書の波磔のような筆勢も認められることから、(⑤)とよばれている。前漢時代になると、II馬王堆帛書のように、字形も整い波磔が顕著に表れるようになった。そして、前漢時代の末には、波磔を強調した(⑥)とよぶ様式が整い、隷書は篆書に代わる公用書体として発展した。

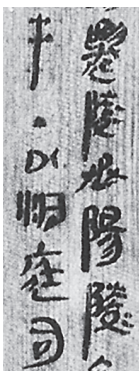
III隷書を速書きした書体は、三国時代になると実用的に広く用いられるようになった。また、隷書の速書き書体を整齐に書くこととして芽生えたとみられるのが楷書である。その発生時期は(⑦)の筆法が認められる肉筆資料により、(⑧)世紀頃と考えられている。

問一 文中の空欄①～⑧に当てはまる適切な語句を漢字で書きなさい。ただし、同じ数字には、同じ語句が入る。

問二 傍線部I～IIIについて、あとの問いに答えなさい。



図版 A



図版 B



図版 C



図版 D

(1) 傍線部I、IIに該当する作品を図版A～Dからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。

(2) 傍線部IIIについて、隷書から草書への過渡的な性格をもつ書体を漢字で書きなさい。

問三 図版E、図版Fについて、あとの問いに答えなさい。



図版 E

(⑨) (邑 廼) (⑩) () (⑨) () (⑪) (田 眉) (⑫) ()



図版 F

(⑮) 臣 () (⑬) () (⑯) () (⑰) () ()

(1) 図版E、図版Fの作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。

(2) 図版E、図版Fの積文の空欄⑨～⑰に当たる文字をそれぞれ楷書で書きなさい。ただし、同じ数字には、同じ文字が入る。

二 次の図版について、あとの問いに答えなさい。



図版 A



図版 B



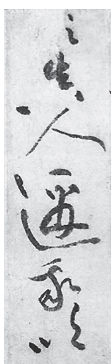
図版 C



図版 D



図版 E



図版 F

問一 図版A～Fの時代、作者名、作品名について解答欄に当てはまる適切なものを、次のA～Fからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。

【時代】	A	東晋	イ	前漢	ウ	唐	エ	戦国	オ	北宋	カ	後漢	キ	北魏
【作者名】	a	黄庭堅	b	王献之	c	欧阳詢	d	鄭道昭	e	顏真卿	f	作者不詳	g	太宗
【作品名】	1	鄭義下碑	2	曹全碑	3	祭姪文稿	4	李太白憶旧遊詩卷	5	石鼓文	6	廿九日帖	7	争坐位文稿

問二 我が国の篆刻界にも大きな影響を与えた清代の人物で、図版Aを臨書したことで代表的な人物を漢字で書きなさい。

問三 図版Bの時代、書信に封をする目的で粘土の塊に押印したものを何というか、漢字で書きなさい。

問四 図版Eの時代、名筆などの複製が様々な手法で行われた。籠字を作り、その中を墨で埋める技法を漢字4字で書きなさい。

問五 図版Fと同じ時代に生きた人物で、「黄州寒食詩卷」、「苕溪詩卷」の作者をそれぞれ漢字で書きなさい。

令4 高等学校書道 (5枚のうち2)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

七世紀以後の日本は、(①)などの派遣を通じて、中国大陸の優れた文物や思想を積極的に吸収してきた。奈良時代に宮廷や貴族を中心に華開いた(②)文化や、平安時代初期に仏教や漢文学の発展によって興った弘仁・貞観文化は、いずれも唐の文化の影響を強く受けたものである。しかし、八世紀に唐が衰退すると、九世紀には、(①)が廃止され、わが国と大陸との関係は大きく変化した。十世紀以降は、文化においても、それまでの大陸文化の吸収の上に、日本の風土や生活、日本人の感性に合ったものを創造するという(③)化が進み、新たな表現の姿が生まれた。

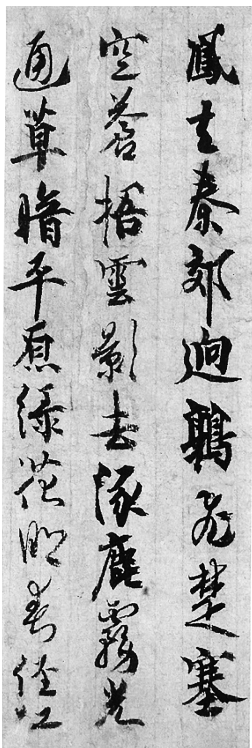
書もまた、(④)と呼ばれるI平安時代前期に活躍した三名の能書が、晋・唐以来の書法を基盤としたのに対し、平安時代中期には、長い年月をかけて吸収した中国書法の上に、日本の風土や日本人の感性が反映されるようになった。さらに、(⑤)と呼ばれるII平安時代中期に活躍した三名の能書によって、(⑥)と呼ばれる日本独自の書風が完成した。

なお、平安時代中期には仮名が発達し、わが国初の勅撰和歌集(⑦)が編集され、『源氏物語』や『枕草子』などの女流文学が生まれる源となった。



図版A

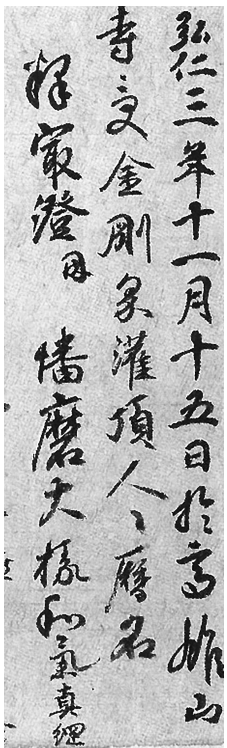
忽患(⑧)札(⑨)以慰(⑩)香
(⑪)以三日来也。(⑫)三日起
首、(⑬)九日、一(⑭)可(⑮)。



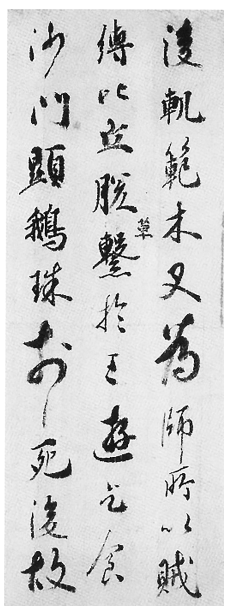
図版B



図版C



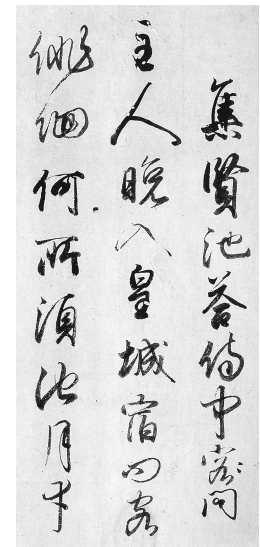
図版D



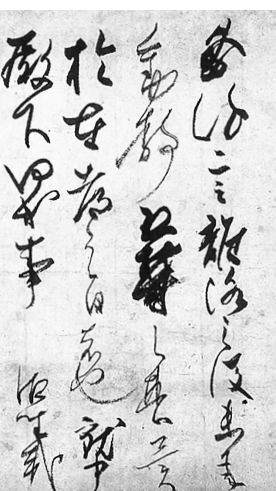
図版E



図版F



図版G



図版H

問一 文中の空欄①～⑦に当てはまる適切な語句を漢字で書きなさい。ただし、同じ数字には、同じ語句が入る。

問二 図版Aの釈文の空欄⑧～⑮に当てはまる文字をそれぞれ楷書で書きなさい。また、図版Aについて、作者や作品名・書風を含め、簡潔に説明しなさい。

問三 図版B・Cは傍線部Iの書である。作品名と伝承筆者名(作者名)を漢字で書きなさい。

問四 図版D・Eと同じ伝承筆者といわれる作品を図版A～Cからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。

問五 図版F～Hは傍線部IIの書である。作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。

問六 図版Hは詫び状である。この作者を「日本第一の御手のおぼえ(日本一の書の名手)」と記している日本文学作品を次のア～オから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア『枕草子』 イ『方丈記』 ウ『徒然草』 エ『大鏡』 オ『源氏物語』

問七 次の(1)～(3)の書道用語について簡潔に説明しなさい。

- (1) 花押(かおう) (2) 真跡(しんせき) (3) 宸翰(しんかん)

令4 高等学校書道（5枚のうち3）

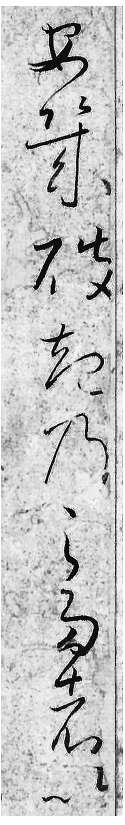
（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

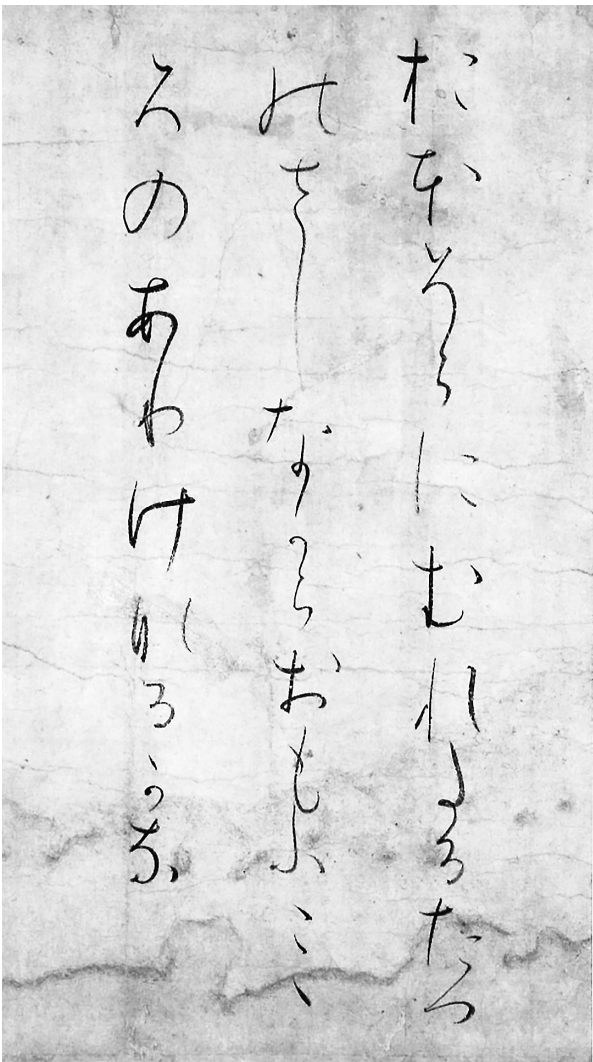
七世紀半ばには、漢字の音訓を用いて日本語の文章や和歌が書き記されるようになり、奈良時代、八世紀後半の歌集（①）でこうした表記法が集約された。図版Aはこの歌集で用いられた仮名で書かれている作品である。平安時代には文字の簡略化が進み、（②）という仮名で書かれた図版Bがある。さらに、（③）から字源の姿が分からないほどに略された仮名（④）が生まれ、図版Cが書かれた。仮名には、同じ音に対して複数の書き方が存在する。しかし、（④）年、義務教育で学ぶ仮名は一音につき一文字に統一された。これを平仮名といい、それ以外を（⑤）として区別するようになった。



図版A



図版B



図版C

お^例（⑥）（ ）（⑦）（らにむれ）（⑧）（るたつ）
 （⑨）（さしな）（⑩）（らおもをい）
 るのあ（⑪）（げ）（⑫）（る）（⑩）（ ）（⑬）（ ）

問一 文中の空欄①～⑤に当てはまる適切な語句をそれぞれ漢字で書きなさい。ただし、同じ数字には、同じ語句が入る。

問二 図版A・図版B・図版Cの作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。また、それぞれの図版作品の所蔵先を次のア～オから一つ選び、その符号を書きなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|---------|---|-------|---|-----|---|----|
| ア | 五島美術館 | イ | 東京国立博物館 | ウ | 出光美術館 | エ | 正倉院 | オ | 東寺 |
|---|-------|---|---------|---|-------|---|-----|---|----|

問三 図版Bの最初の5文字を楷書で書きなさい。

問四 平安時代の名筆「三色紙」と呼ばれる古筆の中で、図版Bと同じ作者であると伝えられている作品名を漢字で書きなさい。

問五 図版Bの作品は、卷子本の形で現存し、卷子本の後半にはある人物の尺牘が臨書されている。その人物名を漢字で書きなさい。

問六 図版Cの二行目最後にある「、」の名称を書きなさい。

問七 図版Cに使用されている料紙名を漢字で書きなさい。

問八 枠線内の読みは、図版Cに書かれている内容を平仮名に直したものである。空欄⑥～⑬に当てはまる適切な平仮名とその字源となる漢字を解答欄の例にならない、それぞれ書きなさい。（「」は改行を示す。）ただし、同じ数字には、同じ文字が入る。

五 次の各問いに答えなさい（図版の落款は省略しています）。

問一 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

文字を持たなかった私たちの祖先は、仮名を創り出し、その仮名と漢字を混じり合わせることで、日本のことばを作り上げてきた。平安時代中期に書かれた歌集の写本などを見ると、時代の古いものほど全文が仮名で書かれ、Ⅰ鎌倉時代に近づくと、漢字を混じえて書かれる傾向が認められる。

鎌倉時代には、便利で使いやすいことから、漢字仮名交じりの表記が一般化し、書も平安時代の優美な書から（①）に主眼を置いた書へと変化した。そして、南北朝から室町時代になると、誰もが学びやすく、多くの人が共通に意図を伝えることができる、

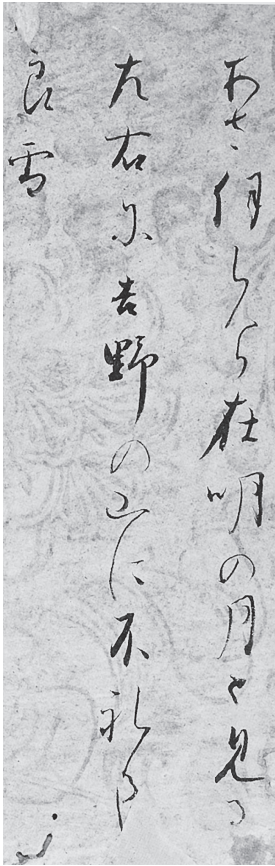
（②）重視の書が主流となった。

Ⅱ江戸時代になると、形式化した書に、新風を吹き込む人々が現れた。また、江戸時代後期には、懐素の書ほか、中国の古典を学びながらもそれにとられず、独特の境地に達した（③）が現れ、その遺墨は現代でも尊重されている。

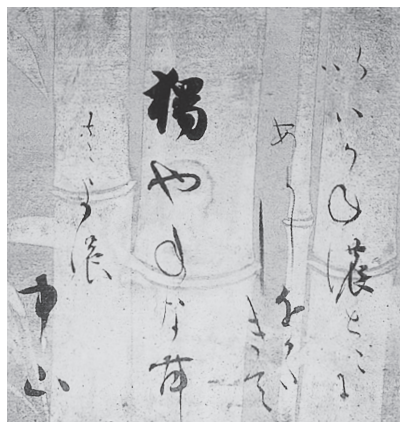
さらに、江戸時代には、版本にも漢字仮名交じり文のものが登場するようになり、やがて版本独特の文字や、（④）が生まれるなど、装飾性の高い文字も出現した。

令4 高等学校書道 (5枚のうち4)

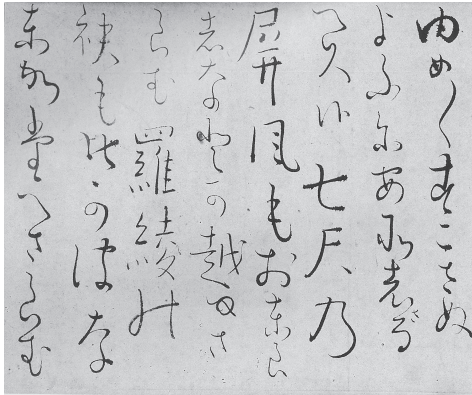
(解答はすべて、解答用紙に記入すること)



図版 A



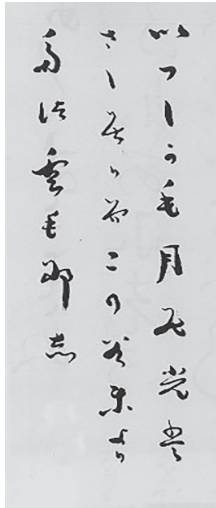
図版 B



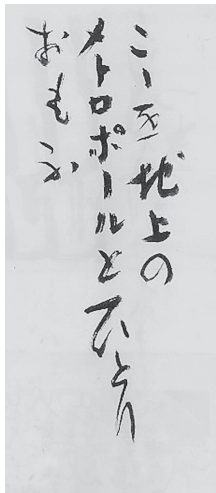
図版 C



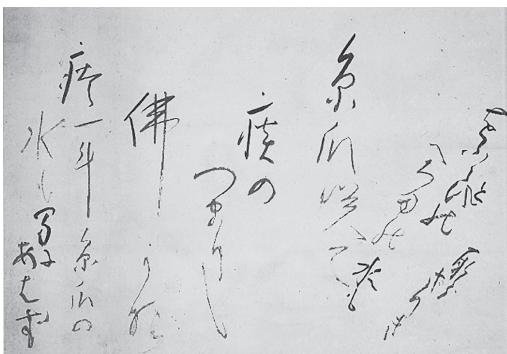
図版 D



図版 E



図版 F



図版 G

(1) 図版 A は傍線部 I に示される作品の一つである。作品名として正しいものを、次のア～オから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 元永本古今和歌集

イ 三宝絵詞

ウ 源氏物語絵巻詞書

エ 多賀切

オ 今城切

(2) 文中の空欄①―②に当てはまる言葉の組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア ①様式 ― ②実用

イ ①実用 ― ②様式

ウ ①調和 ― ②表現

エ ①表現 ― ②調和

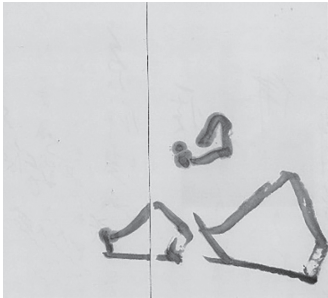
(3) 図版 B は傍線部 II に示される人物の作品である。作者名を漢字で書きなさい。

(4) 図版 C は文中の空欄③の作品である。空欄③に当てはまる作者名を漢字で書きなさい。

(5) 図版 D は文中の空欄④にあたる作品の一つである。空欄④に当てはまる適切な名称を漢字で書きなさい。

(6) 図版 E、G について、それぞれの作者名を漢字で書きなさい。

問二 図版 H は、革新的な発想にもとづく前衛的な表現を追求した作者の作品である。作者名を漢字で書きなさい。



図版 H

問三 書論(1)～(4)の内容に合致する作品名として正しいものを、あとのア～オからそれぞれ一つ選び、その符号を書きなさい。

(1) 書の妙道は、神彩を上と為し、形質之に次ぐ。之を兼ねる者にして古人に紹ぐべし。

(2) 書も亦古の意に擬するを以て善しと為す。古の跡に似たるを以て巧なりと為さず。

(3) 能く古にして時に乖かず、今にして弊を同じくせざるを貴ぶ。

(4) 古人は神氣翰墨の間に淋漓として、妙処は意の如く所に随いて、自ら体勢を成すに在り。

ア 筆意賛

イ 画禅室随筆

ウ 書譜

エ 遍照發揮性靈集

オ 山谷題跋

問四 書において、意図や拘束を脱し、無心に自然に筆を運ぶ在り方や、そのように書かれた筆跡を何というか。また、作品を構想し、工夫を積み、計画を立てて制作する行為やその筆跡を何というか。それぞれ漢字2文字で書きなさい。

問五 水を張った容器に墨液を数滴垂らして流動させ、すばやく紙の表を水面に伏せてその模様を写し取る方法を何というか。漢字を交えて書きなさい。

